～教員おすすめ本～ No. 30

文芸学部 芸術学科舞台芸術専攻
梅山 いつき

『カンガルー日和』

村上春樹 著

【先生からのコメント】

村上春樹の短編集です。なかでもおすすめは「4 月のある晴れた朝に 100 パーセントの女の子に出会うことについて」。タイトルの通り、主人公の「僕」は 4 月のある晴れた朝、原宿の裏通りで「100 パーセントの女の子」とすれ違います。それはほんの一瞬の出来事で、しかも彼女はたいして美人でもおしゃれでもありません。それでも僕は自分にとって間違いなく彼女が 100 パーセントの女の子であると確信します。だからと言って声をかけることもなく、二人の間にドラマが生まれるわけでもありません。それでも僕はまるではぐれた半身を見つけたかのような幸福感に包まれます。「可能性が僕の心のドアを叩く」という一文が出てきますが、まるで新学期のキャンパスを描写しているかのようでもあります。

『この世にたやすい仕事はない』

津村記久子 著

【先生からのコメント】

本作の主人公は燃え尽き症候群のような状態で前職を辞めて以来、正直、働きたいのか働きたくないのかわからない。そんな彼女が出会った地味だが個性的な仕事にまつわる五つの物語からなるオムニバス。どんな仕事が出てくるかは読んでからのお楽しみですが、わたしのお気に入りは第 3 話「おかきの袋のしごと」。お煎餅が入った小袋の裏にマメ知識が書いてあることがありますが、それを考える仕事です。就活で疲れた 4 回生は息抜きがてら読んでみてください。作者の津村さんは大阪出身。がんばりすぎて空回りしがちな不器用な人に寄り添う物語が多く、次の一歩がなかなか踏み出せない人の背中をそっと押してくれます。

2019 年 6 月 14 日
近畿大学中央図書館